

札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ 2 1 (第二次)」推進方針  
「市民との協働による健康なまちづくり」  
への提案

平成 26 年 12 月

札幌市健康づくり推進協議会

## 提案にあたって

札幌市では、平成 26 年 3 月に「市民が地域とのつながりの中で、すこやかに心豊かに生活できる社会の実現」を基本理念に掲げた、札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ 2 1 (第二次)」を策定しました。

「健康さっぽろ 2 1 (第二次)」を推進するために、本協議会において、平成 26 年 6 月に計画の推進方針を決定し、その中で「健康づくりを支える環境整備」を掲げ、その一つである「市民との協働による健康なまちづくり」の取組について検討するために「健康寿命部会」を設置しました。

このたび「健康寿命部会」が、平成 26 年 7～9 月まで 3 回にわたり「市民との協働による健康なまちづくり」について検討した内容を、札幌市への提案としてまとめました。

札幌市におかれましては、本提案を踏まえ「市民との協働による健康なまちづくり」に向けた取組について具体的に検討いただくとともに、実効性のある取組がなされるよう、希望いたします。

## 1 「健康さっぽろ 2 1 (第二次)」の概要と推進方針

### (1) 概要

札幌市では、平成 14 年に札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ 2 1」の第一次計画を策定し、平成 26 年 3 月まで取組を進めてきました。この第一次計画の成果及び課題、そして国の基本方針である「健康日本 2 1 (第二次)」を踏まえ、このたび、これからの 10 年を展望した市民の健康づくりの指針となる、札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ 2 1 (第二次)」を策定しました。

この計画では、全体目標として「健康寿命の延伸」「健康格差の縮小」「すこやかに産み育てる」を掲げ取り組むこととしております。

### (2) 計画の推進方針

#### ア 基本要素ごとの取組と進行管理

- ・基本方針に基づき、8 つの基本要素ごとに市民、地域、企業・関係機関、行政が健康づくりに取り組む。
- ・毎年度、計画に掲げる施策の進行状況等を把握・評価し次年度施策につなげる。

イ 健康づくりを支える環境の整備

- ・ソーシャルキャピタル（社会のつながり）の概念を取り入れ、特に重要な取組として「企業・団体等との連携による効果的な普及啓発」「市民との協働による健康なまちづくり」の取組を強化する。

## 2 札幌市のこれまでの「市民との協働による健康なまちづくり」

第一次計画では、市民一人ひとりが主体的に健康づくりを実践するとともに、個人を取り巻く家庭や学校、地域、行政などが連携・協働して、健康づくりを地域全体で取り組むことを目指してきました。

そのために札幌市では、健康づくりリーダーなど健康づくりの担い手や自主活動グループの育成を行い、個人やグループ、団体での活動から地域の活動に発展させる取組を進めてきました。（表1）

表1 札幌市の取組

事業名	内 容	実施時期	実績
健康づくりリーダー養成研修	町内会など地域の組織が主体となった健康づくりの取組を進めるために、健康づくりを実践できる人を養成	昭和 62 年度～ 平成 22 年度	5,638 人
ヘルシーコミュニティ促進事業	地域住民の自主的で継続的な健康づくり活動を促進するため自主活動グループに助成金交付や運営の助言等実施	平成 14 年度～ 平成 22 年度	328 グループ 8,457 人
食生活改善推進員養成講座	食を通じた健康づくりのボランティアを養成。「食生活改善推進員協議会」として地域の食育活動でも活躍	昭和 51 年度～	7,754 人
ウォーキング実践指導ボランティア研修	多くの市民がウォーキングに取り組むためにウォーキングの実践指導者を養成し、市や区、地域のウォーキング大会などで活動しウォーキングを普及	平成 19 年度～	372 人
健康づくりサポーター等派遣事業	健康づくりに取り組むグループに対して、健康運動指導士等健康づくりの専門家であるサポーター等を派遣	平成 23 年度～	登録 47 人 派遣 61 回 (平成 25 年度)
区健康づくりネットワーク促進事業	地域で健康づくりに取り組んでいる人材やグループをネットワーク化し区や地域の健康づくりの核となるよう取組を進めていく	平成 18 年度～	

さらに区ごとに健康づくりに取り組む仲間がつながりを持ち、地域で健康づくり活動を実践するために「区健康づくりネットワーク」を設置し取組を進めてきました。

このネットワークの構成は、区によってさまざまであり、健康づくりリーダーや自主活動グループ、町内会などの地域組織の代表者等を構成員としています。

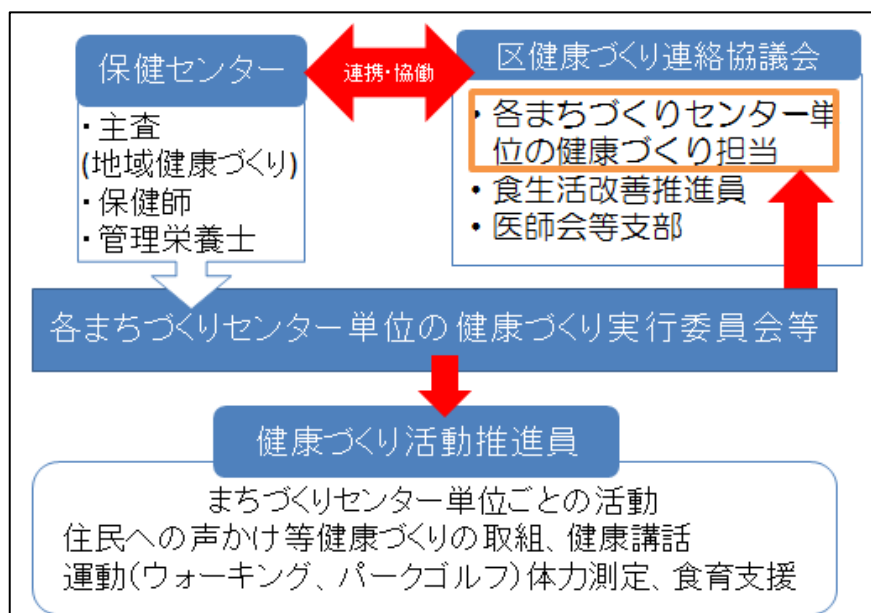
また、区によっては医師会などの保健医療関係団体、老人クラブ、地域包括支援センター、大学、企業などの協力や支援を得ながら取組を進めています。

【区健康づくりネットワークと健康なまちづくりの事例】

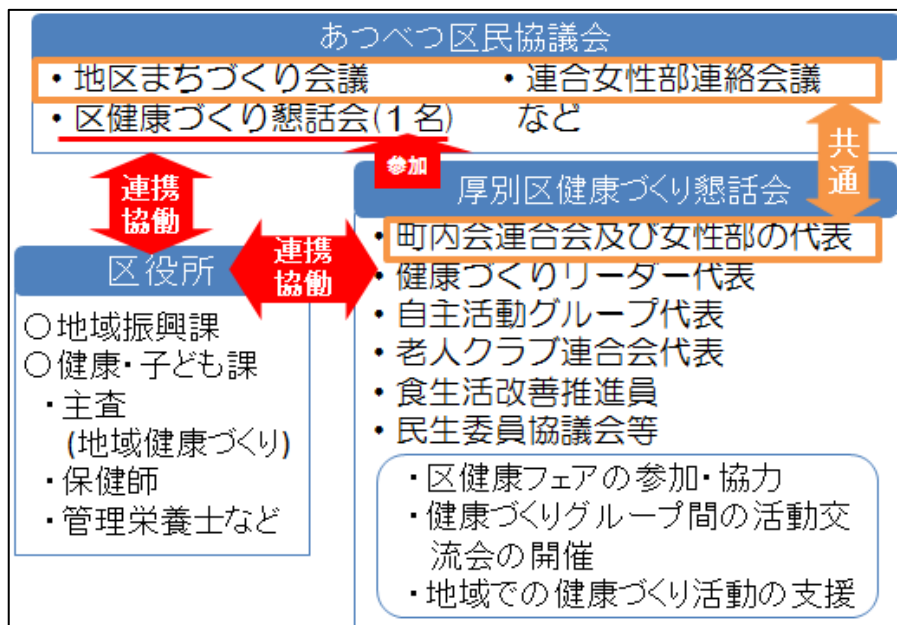
① 区単位、まちづくりセンター単位の二層構造による健康なまちづくり

各まちづくりセンター単位に健康づくり実行委員会等を設置し、健康づくり活動を実践している。

さらに、実行委員会等の構成員や健康づくりのボランティアに加え、医師会などの保健医療関係団体が支援する区健康づくりネットワークが、健康づくりを推進している。



② 区のまちづくり活動と連動した区健康づくりネットワークによる健康なまちづくり  
 区のまちづくりの協議会に健康づくりネットワークの構成員が参画して、まちづくりと健康づくりを一体的に推進している。



### 【 地域の現状 】

- ・ 連合町内会や地区社会福祉協議会、まちづくり会議などの地域組織で健康づくり事業を推進し、ウォーキング大会などに多くの参加者が集まる地域がある。
- ・ 連合町内会内の健康づくりリーダー養成研修受講者をグループ化して、健康づくり活動を実践している地域がある。
- ・ 健康づくりの自主活動グループは単独で活動しており横のつながりがない。
- ・ 地域で健康づくりを担う人の高齢化が進み世代交代が課題となっている。
- ・ 全市単位で集まる機会がなく他区の健康づくりの状況を共有する機会がない。
- ・ 札幌市の健康づくりの方針が住民に浸透していない。
- ・ 健康づくりリーダー養成研修等健康づくりを実践する人を育成したが、地域に健康づくりに取り組む場や機会がなかった。
- ・ 過去に実施していた健康づくりリーダー養成研修やヘルシーコミュニティ促進事業は、地域の健康づくりを進める上で重要な役割をもっていた。

### 3 「松本市との健康づくり市民派遣研修」で学んだ松本市の健康づくり

松本市は「健康寿命延伸都市・松本」を市の重要政策として掲げており、地域住民と協働した健康づくりの推進に取り組んでいます。札幌市はこの先駆的な取組を学ぶために平成 25 年度から、札幌市と松本市の健康をテーマとした市民交流を開始しました。

札幌市からは、各区で健康づくり活動に取り組む市民 20 名（平成 26 年 2 月、10 月に各 10 名）が松本市を訪問し、松本市からも平成 26 年 10 月に 8 名の市民を迎え、交流を深めました。

#### ＝松本市の健康づくりの取組＝

健康寿命の延伸を目指すために、市民一人ひとりの命と暮らしを大切にすることが重要であることから、身体健康だけでなく家族や地域のつながりなどさまざまな環境の健康が必要ととらえ、地区住民の身近なところから健康づくり事業を推進する「健康づくり推進員」が市民の健康づくりの担い手となっています。

### 【 松本市健康づくり推進員とは 】

昭和 50 年から活動を開始し、健康増進の推進者として、自治会の役員として位置づけられ行政など関係機関と連携し、健康づくり事業が地域に行きわたるよう自治会単位で活動している。

2 年間の任期で市長からの委嘱を受け、現在 35 地区で 910 名が活躍しており、地区ごとにごん検診・特定健診の受診勧奨やウォーキング、介護予防など健康づくりイベントの開催、健康教室の企画・運営などを行っている。

### 4 札幌市の「市民との協働による健康なまちづくり」の課題

札幌市の健康づくりの現状と松本市や他市町村の取組も参考にし、課題を 3 点にまとめました。

- (1) 個人、自主活動グループ、町内会などの地域組織、健康づくりのボランティア等が各々健康づくり活動に取り組んでいるが、横のつながりがないため活動が地域全体に広がらない
- (2) 地域で健康づくりに取り組む人材や自主活動グループを育てる機会が減少し、健康な地域づくりの担い手として重要な役割を果たす市民が育成されない
- (3) 市の健康づくりの方針が市民と共有できていないことから、各区の健康づくりに取り組む体制がさまざまであり地域に浸透しない

## 5 「市民との協働による健康なまちづくり」への提案

これまでの札幌市の取組や松本市、さらには他の自治体の取組を参考に、札幌市における「市民との協働による健康なまちづくり」のために、大きく4点にまとめ提案します。

### (1) 健康なまちづくりを進めるための効果的な活動単位

札幌市はこれまで、区単位で健康づくりリーダーや自主活動グループ、町内会などの地域組織等、地域で健康づくりに取り組む人々のネットワーク化を図り、市民の自主的で継続的な健康づくり活動を支援してきました。

区によっては、さらに細かな単位で町内会などの地域組織や健康づくりに取り組む団体などが中心となり、地域の住民とともに健康づくり活動に取り組んでいるところもあり、区ごとにさまざまな取組をしていることが分かりました。

今後は「健康さっぽろ21（第二次）」の基本理念である「市民が地域とのつながりの中で、すこやかに心豊かに生活できる社会の実現」のために、市民が地域の中で世代を超えたさまざまな交流を通しつながりを深め、主体的に健康づくりに取り組むことが重要であることから、これまでの区単位の取組をさらに細かく、市民にとって身近な生活範囲において健康づくり活動を推進していくことが望まれます。

札幌市は、各区のまちづくりセンターをまちづくりの拠点として取組を進めています。健康づくりもこのように、例えばまちづくりセンター程度の生活範囲の小さなコミュニティ単位で取組を進めていくことが効果的であると提案します。

### (2) 健康なまちづくりの担い手

「健康さっぽろ21（第二次）」は、目標を達成するための戦略として、①市民一人ひとりが参画して②地域とともに③市民・地域・企業・関係機関が連携しての3つを定め取り組むこととしています。

地域における健康づくりは、市民一人ひとりが主体的に取り組むことも大切ですが、町内会などの地域組織や自主活動グループなどのさまざまな団体が行政等と連携し、社会全体として健康づくりに取り組みやすい環境を整備することが重要です。

これまでの健康づくりの事業等を通し、多くの市民が自主活動グループや団体などに所属し健康づくり活動に取り組んでいることが札幌市の特徴であると考えます。しかし一方で、自主活動グループや団体などに新たに参加する人の減少や高齢化、リーダーの世代交代など多くの課題を抱えていることもわかりました。

今後、地域における健康づくりの取組を強化するためには、この特徴を活かすことが効果的です。そのためには、札幌市の健康づくりの方針や地域の健康づくりの課題、健康なまちづくりの方法等を理解し、行政や関係機関等と協働して取り組める健康づくりの担い手が必要です。

札幌市は、健康づくりを地域全体に広める活動ができる人材や自主活動グループの育成に取り組むことを提案します。また、地域で健康づくり活動を実践する市民の高齢化や世代交代が課題となっています。将来の健康づくりの担い手を確保するためにも、健康づくり活動を若い世代に広げることが重要であり、昨今低迷している地域コミュニティの活性化も見据えた取組に発展することが期待できると考えます。

### (3) 健康なまちづくりを進める体制

札幌市はこれまで、区単位で健康づくりリーダーや自主活動グループを育成し、多くの市民がウォーキングをはじめとしたさまざまな健康づくり活動に取り組んでおり、各区ではその自主的な活動を尊重し支援してきました。

一方で、松本市では、健康づくり推進員が自治会役員として位置付けられ、地域組織と連携しながら健康づくりを地域全体に広げる活動をしていました。

札幌市の各区における健康づくりの実施体制を見ますと、区の健康づくりネットワークが中心となったり、まちづくりセンター程度の生活範囲の小さなコミュニティ単位で取り組んでいるところがあるなどさまざまな状況であり、健康づくりを行う自主活動グループや団体はたくさんありますが、札幌市としての方針のもと活動を地域全体に浸透させるまでに至っていないことがわかりました。

今後、健康なまちづくりを推進するためには、松本市などを参考に、健康づくりを支える環境を整備することが必要です。札幌市の特徴である、区健康づくりネットワークを中心とした区単位の実施体制の充実に加えて、地域で健康づくりを担う人材の活動基盤の整備が重要であり、まちづくりセンター程度の生活範囲の小さなコミュニティ単位で健康づくりを企画・実践する部門を設置することを提案します。

その際に、地域ではこれまで連合町内会や福祉のまち推進センター、民生委員児童委員協議会、青少年育成委員会、スポーツ推進委員会などさまざまな団体等が健康づくりに関する取組を行ってきたことなどに配慮し、画一的に進めるのではなく、地域の実情に十分に留意する必要があります。

### (4) 行政との協働

札幌市では、多くの市民が自主的な健康づくり活動に取り組んでいることがわかり、このような活動を発展させることにより「市民との協働による健康なまちづくり」の実現に向け取組を進めることができると考えます。

そのために札幌市としては、例えば、健康情報の提供や健康づくりに係る資源の情報提供、不足する資源の開発等に取り組み市民の活動を支援するとともに、保健師等の専門職が地域の健康課題や健康づくりの取組などを継続的にサポートする体制の整備が望まれます。

また、健康づくりに取り組む多くの市民が、区を超えてつながる機会を設け、情報交換や情報共有をすることにより、それぞれの取組の発展が期待できるものと考えます。

このように、市民の草の根的な運動を広げることにより、地域や市全体の大きな取組へと発展させることを提案します。

そのためには、自主活動グループや町内会などの地域組織等健康づくりに取り組む団体が、健康づくりに関する安定的な事業展開や組織運営が行えることが重要であることから、今後、これらの市民の取組を評価し、行政としての具体的な支援策について検討することを求めます。

## 【参考】

### ■健康寿命部会 委員名簿 (敬称略)

#### <札幌市健康づくり推進協議会委員>

- ◎玉腰 暁子 北海道大学大学院 医学研究科 社会医学講座公衆衛生学分野 教授  
○鳴海 清人 公益財団法人北海道労働保健管理協会 統括本部 企画調整室長  
滝波 良子 厚別区厚別南町内会連合会 女性部長  
辻 信雄 市民委員

#### <松本市との健康づくり市民派遣研修参加者>

- 金澤 邦子 中央区健康づくり元気会 副会長  
伊東 敏恵 北区新琴似西連合町内会 総務部長  
田中 勝美 東区健康づくり連絡協議会 副会長  
市野 美砂子 白石区食生活改善推進員協議会 会長  
大川 憲一 厚別区健康づくり懇話会 委員  
富樫 淳 豊平区食生活改善推進員協議会 会長  
小林 紀昭 清田 Hi 遊会  
伊藤 豊繁 みなみくん歩好会 会長  
芳川 晃 西区健康づくりネットワーク会 ウォーキング部会 副部会長  
木村 博 手稲一万歩あるく会 会長

#### <健康づくりの自主活動グループなど>

- 越後 宰 中央区健康づくり元気会会長  
男性料理の会「赤いエプロン」副会長  
齋藤 芳子 北区健康をまもるつどい 代表  
湯佐 幸男 栄西地区福祉のまち推進センター 運営委員  
東区健康づくり連絡協議会 副会長  
川股 陽子 健康づくりグループ「いい華元の会」 代表  
南区藻岩連合町内会健康づくり推進会 代表

◎は部会長、○は副部会長

### ■健康寿命部会 開催状況

- 第1回 平成26年7月8日  
第2回 平成26年8月6日  
第3回 平成26年9月10日